

機械科って何をするのですか？

その①

松江工業高校は明治40年に松江市立工業学校修道館として誕生しました。その後、大正8年(1920年)に機械科が設置され、今日に至ります。つまり、機械科には103年の歴史があるということになります。多くの工業高校には機械科があるので、比較的によく耳にする科なのかも知れませんが、何を学んでいるのかは中々、分からないかも知れません。そこで、いくつかの実習の様子をピックアップしてお伝えしていきたいと思います。

工業高校の特色の一つは実習だと思えます。写真は「**鑄造 (casting)**」の様子を示すものです。鑄造とは、金属の可融性を利用し、作ろうとする品物と同じ形状に作られた空洞部(鑄型)に、溶かした金属を注ぎ込んで作る工作法のことです。本校では砂型鑄造法について学習します。砂型というだけあり、山砂を使って鑄型を作ります。古くは銅矛、銅鐸から、現在ではエンジンのシリンダーブロックなど、鑄造製品は私たちの身の回りに沢山あります。

温故知新、昔の技術を学び、そこから新しい知識・見解を導く、機械科の実習の醍醐味はそこにあります。次週は、いよいよ、鑄込みをします。約1500℃の溶けた鉄を鑄型に流し込みます。皆さんは溶けた鉄を見たことがありますか？

